

研究に関する情報公開について

研究課題	変形性膝関節症に対する内側開大式脛骨高位骨切り術を受けた患者における外側半月板の異常可動性に関する要因の検討
研究機関の名称	医療法人社団友志会 石橋総合病院整形外科
研究責任者	高橋 恒存
研究対象者	2020年12月から2025年1月に当院で脛骨高位骨切り術を受けた方を対象としています。
研究の目的・意義	<p>膝内側コンパートメントの変形性膝関節の患者様に対して脛骨高位骨切り術は有効な治療方法で、若年者から高齢者まで広く適応されます。</p> <p>この治療法は内側の変形に対して効果的である反面、膝の外側に損傷がある場合、術後に外側の負担が増大するため新たな症状が出現する可能性があります。</p> <p>本研究の目的は、脛骨高位骨切り術を施行する患者様において、膝外側の症状の原因の一つである外側半月板の異常可動性の有病率を調査し、その関連する因子を明らかにすることです。この研究によって、脛骨高位骨切り術を行う際に外側半月板を評価することの重要性を周知することができ、必要に応じた処置へつなげることが可能となります。これにより脛骨高位骨切り術後の痛みの原因を減らすことに繋がり、有益だと考えられます。</p>
研究方法	2020年12月から2025年1月に当院で脛骨高位骨切り術を受けた方を対象としています。診療録から情報を抽出し、統計解析を行います。本研究では患者様から新たな情報の提供は頂きません。
研究期間	石橋総合病院倫理委員会の承認を受けてから2025年5月末まで。
研究に使用する情報	患者様の診療録より以下の情報を使用します。 年齢、性別、身長、体重、BMI、患側、術前可動域、レントゲン所見、関節鏡所見。
研究に関する情報公開の方法	対象の方でご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の資料などを閲覧または入手することができますので、お申し出ください。
個人情報の取り扱い	診療録から抽出する情報は、個人が特定できないように、研究責任者が病院ID、氏名、生年月日の情報を削除し、個人の特定できる情報を新たな符合に置き換えた上で研究に使用します。データは研究責任者がリハビリテーション部門内で厳重に保管します。新たな符合と個人を特定できる対応表を同様に厳重に保管します。また、研究成果は、個人を特定できないようにして学会発表や論文などで報告します。
研究組織名称	医療法人社団友志会 石橋総合病院 整形外科 高橋恒存（研究責任者）
問い合わせ先	<p>【研究責任者】</p> <p>医療法人社団友志会 石橋総合病院整形外科</p> <p>高橋 恒存</p> <p>〒329-0596</p> <p>栃木県下野市下古山1-15-4</p> <p>電話：0285-53-1134</p>